

プチ図鑑

ほたる  
兵庫の螢



# 目次 CONTENTS

はじめに	1
ホタルに会うために	2
成虫が光るホタル	
ゲンジボタル	4
ヘイケボタル	6
ヒメボタル	8
成虫は光らないホタル	
クロマドボタル	10
オオマドボタル	11
オバボタル	12
オオオバボタル	13
ムネクリイロボタル	14
カタモンミナミボタル	15
スジグロボタル	16
幼虫ときなぎ	17
ホタル図鑑	18

## はじめに

ホタルは、わが国でもっとも愛されている昆虫のひとつであるとともに、わが国の自然と文化を代表する生物でもあります。

ホタルの代表は、ゲンジボタルとヘイケボタルですが、どちらも人里に多くすみ、ちょうど田植えが終って農作業が一段落した頃に現れます。秋の訪れとともにその数を増す鳴く虫たち、稲刈りの頃に現れる赤とんぼ。ホタルは、これらとともに、わが国の美しい四季を感じさせる、「風流」な生物の代表といえるでしょう。ホタルを見たことのない人は、ぜひ一度は見てほしいものです。

ホタルは、世界に2,000種以上いるともいわれており、多くは熱帯、亜熱帯にすんでいます。じつは、ゲンジボタルやヘイケボタルは、世界ではかなり特殊な部類に入ります。日本ではこの2種が目立つため、ホタルは川や田んぼにいるのが常識となっていますが、ほとんどのホタルは、幼虫が陸生です。

この冊子を片手に、ぜひもっとホタルに興味をもってくださり、ホタルの魅力を次世代の子どもたちに伝えてほしいと思います。

## ホタルに会うために

毎年6月頃になると、博物館には、「ホタルはどこに行けば見られるの？」という問合せがたくさんあります。「今夜見に行ける場所を教えてください」という要望も少なくありません。申しわけありませんが、博物館では「ここに行けば見られます」という情報はお知らせしていません。そのかわり、どうすればホタルに会えるか、ご説明しています。ホタルはれっきとした野生生物ですから、花火を見に行くようなわけにはいきません。しかし、少しコツを知っていれば、ホタルに会うことはそんなに難しいことではありません。

### 鉄則1・・・明るいうちに現地に行く

明るいうちに現地に行くことが、ホタル観察の鉄則です。

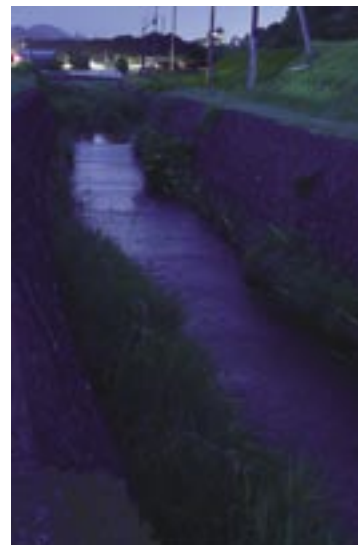
ホタルは、みなさんが想像しているほど珍しい昆虫ではありません。とくに、ゲンジボタルは、すんでいる環境もわかりやすく、昆虫の中でも、見つけやすい方です。しかし、多くの方は、暗くなってから、自動車に乗って、ホタルを見に行こうとします。暗くなってからでは、そこがホタルのいそうな環境なのか、わかりません。また、自動車に乗っていると、ホタルのかすかな光には気づかないでしょう。

### 鉄則2・・・歩く

現地に着いても、車の窓からのぞいているだけでは、何もわかりません。少なくとも10分以上、現地を歩きましょう。ゆっくり歩くことで、いろんなものが見え、感じられるでしょう。生えている植物、川岸や河底のようす、まわりに生えている植物、鳥や虫、これらは、ホタルの生息環境を知る上でたいへん重要な情報です。私たちは、実際に感じたことは、驚くほどよく覚えているものです。このようなフィールド経験の積み重ねが、ホタルをよく知ることに繋がります。

### 鉄則3・・・地図を読む

山、川、田んぼが一堂所にそろっているところ。これがホタルのいるところ。多くの昆虫と同じで、ホタルは、雑木林も田んぼもなような市街地にはすめません。しかし、少し郊外に出れば、ほとん



コンクリート張りの水路にも、ゲンジボタルはすんでいます(三田市)

どすべての川にゲンジボタルはすんでいます。地図を広げ、山が迫っていて、まわりに田んぼがあるようなところをさがします。出かける前に、あらかじめ計画を立てておきましょう。

### 鉄則4・・・マナーを守る

ホタルは人里の昆虫です。何より重要なことは、観察のマナーです。私有地に無断で立ち入る、ゴミを捨てる、大声で騒ぐ、あたり構わず懐中電灯を向ける、などなど、そこで暮らしている方の迷惑にならないよう、マナーを守りましょう。

### 季節、時刻、天候

ゲンジボタルは、6月頃に多く見られますが、地域によって発生時期が異なります。暖かい地方では5月中旬から、寒いところでは7月下旬まで見られます。何度か足を運んで、いつ頃に多く見られるのか調べてみるのもよいでしょう。ホタルは多くの場合、日没から30分ほど経過し、あたりが暗くなった頃から飛び始め、その後1時間くらいの間、もっとも活発に活動します。風のない蒸し暑い日に活発に活動し、風の強い日や肌寒い日にはあまり飛びません。よほどの土砂降りでない限り、雨の日でも活動します。

### ホタルは兵庫県に10種類

日本には50種近く、兵庫県には10種のホタルが記録されています。10種のうち、成虫が夜行性で発光するのは3種です。しかし、他の7種も、幼虫やさなぎは発光します。ゲンジボタルを観察できたら、つぎは、いろんなホタルや幼虫の観察に挑戦してみましょう。

ホタルの光が  
わかるかな♡





群飛するゲンジボタル  
(渋路市)



葉裏で光るオス(三田市)

ゲンジボタル (源氏螢)

*Luciola cruciata*

人々にもっとも親しまれているホタルで、一般にホタルといえば、ゲンジボタルのことを指す。

体長 15～20mm で、他の種の2倍以上の大きさがあり、手にとれば、見まちがえることはない。

川面を乱舞する姿はかつてほど見られなくなったが、市街地をのぞく各地に生息している。



ゲンジボタルのすむ里の川(養父市)  
大小の石が転がり、岸辺には草木がよく繁っている。

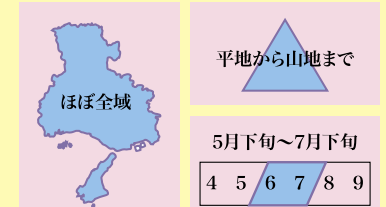


昼間は葉陰で休む(宝塚市)

ゲンジボタルは、人里に近い、流れのあまり速くない小川に多く見られ、川岸に木立のあるところを好む。

幼虫は水の中にすんでいて、カワニナを食べている。大きくなった幼虫は、3月下旬から4月中旬の雨の日の夜、いっせいに光りながら上陸する。上陸した幼虫は、土にもぐってさなぎになる。

見られるとき・ところ



南部では5月中旬から、北部では6月中旬から見られる。



ヒメボタルとの共演 (香美町)  
自然林に囲まれた湿原で。手前はヒメボタル、奥がヘイケボタル。



ヘイケボタルのすむ棚田 (香美町)  
昔ながらの水田が多い。

### ヘイケボタル (平家螢)

*Luciola lateralis*

体長 10mm 前後で、ゲンジボタルよりずっと小型。背中（赤いところ）のまん中に太い黒帯がある。

流れのゆるやかな小川では、ゲンジボタルと同時に見られる。ただし、ゲンジボタルより体が小さく光も弱いので、注意しないと見逃してしまうかもしれない。

いっしょに見られる二種類のうち、大きく立派な方が「源氏」、小さく弱々しい方が「平家」と呼ばれるようになったらしい。



葉陰で光る (猪名川町)  
ヘイケボタルは、草にとまって光っている姿がよく見られる。

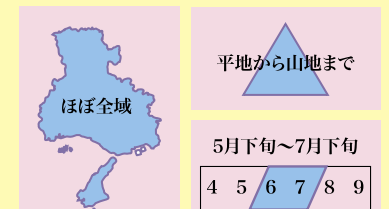


ヘイケボタルのすむ湿原 (神河町)  
流れのゆるやかな河川や湿原にも生息している。

おそらく、もともとは湿原に生息するホタルだが、田んぼやそのまわりの用水路など、身近な環境にもすんでいる。歴史の古い市街地にも見られることがある。

幼虫は水の中にすんでいて、モノアラガイなどの巻貝を食べている。しばしば田んぼの中で光っている姿も観察される。

#### 見られるとき・ところ



ゲンジボタルより遅く現れる。秋に見られることもある。



林の中を飛び交うヒメボタル(川西市)



ヒメボタルのすみ林(丹波市山南町)  
湿った杉林、竹林によく見られる。

**ヒメボタル (姫螢)**

*Luciola parvula*

体長 6~10mm で、ヘイケボタルよりさらに小型。胸部（赤いところ）のまん中に逆三角形の黒い模様がある。

真っ暗な森の中で無数のヒメボタルがいっせいに輝くようすは、息を飲むほどの美しさ。

ヒメボタルのメスは、後翅が退化していて、飛ぶことができない。また、交尾をすると光らないので、なかなか発見できない。

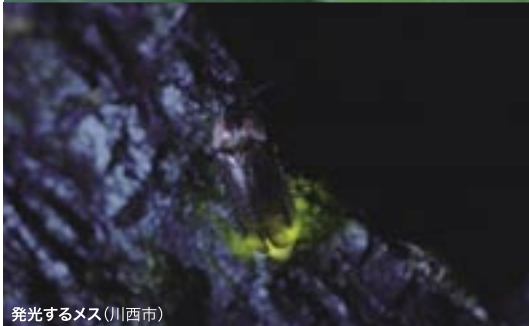
ヒメボタルは、地域によって、体の大きさや出現期、活動時刻などが、大きく異なる。



発光するオス(宝塚市)



住宅地がせまる生息地(川西市)  
大阪平野などでは平地の竹林にヒメボタルが見られることがある。

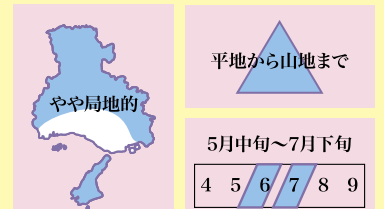


発光するメス(川西市)

ヒメボタルは、自然状態の保たれた林、神社の森など、古くからあまり環境が変化していないところに多く見られる。市街地に残された竹林や畑、河川敷に生息していることもある。

幼虫は地表にすんでいて、キセルガイなどの巻貝や死んだ小動物を食べているらしい。地表をほじくると、幼虫の黄色い光を発見できるが、光は1分間ほどしか持続せず、その後は光ってくれない。しかし、食事中はずっと光っていることが多い。

**見られるとき・ところ**



大阪平野ではゲンジボタルより早く、他ではゲンジボタルより遅く現れる。



葉上で光るマドボタルの幼虫 (猪名川町)  
 ホタルの季節でもないのに、草むらで小さな光を見つけることがある。ホタルかなと思って姿を見ると、平べったい奇妙な虫がいて驚かされる。これがたいいマドボタルの幼虫。

クロマドボタル (黒窓螢)

*Pyrocoelia fumosa*

マドボタルのなかまは、成虫の胸部（前胸背板）に透明の部分「窓」をもっている。

クロマドボタルは、体長 8~10mm。オオマドボタルよりやや小型。全身黒色で、背中（胸）の赤色斑紋はまったくないか、小さい。

幼虫は、樹上や地表を歩き回り、巻貝を食べる。春から秋までよく発光し、黄緑色の光が、数秒間ポーッと続く。

**見られるとき・ところ**

広く分布

平地から山地まで

6月上旬~7月下旬

4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---



クロマドボタルのオス成虫 (丹波市山南町)  
 透明な「窓」がよくわかる



マドボタルのメス成虫 (川西市)  
 はねがなく光らないので、野外で発見することはほぼ不可能

撮影：安岡拓郎



オオマドボタルのオス (香美町)  
 午前中によく活動する



オオマドボタルのすみ森 (香美町)  
 溪谷沿いなどの湿った森に多い

オオマドボタル (大窓螢)

*Pyrocoelia discicollis*

体長 10~12mm で、クロマドボタルよりやや大型。胸部の赤い斑紋は大きく、「窓」も大きめだが、判別に困る個体もある。

幼虫は、クロマドボタルとほぼ同じで、区別できない。地表や樹上を歩き、巻貝を食べ、よく発光する。

**見られるとき・ところ**

局地的

やや山地

6月中旬~7月下旬

4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---

クロマドボタルよりも局地的。詳細な分布は不明。